

東京期米特需

兵庫期米特需

品類	抽込額	十七日
于治川水	五〇〇	
京阪電鐵	五〇〇	

日本郵船	西曆八月廿八日	二八
大阪商船	西曆八月廿九日	三六
東洋興業	西曆九月一日	三八

大陽三品將
四二六〇〇

大阪期米特需

下關期米特需

維
報

の天龍あり、當國四百十六
百一圓と高氣配なり、綿布三
十四圓四十錢と再び氣配を
奪れり、昨今は印度方面の新

●綿布見送閑

票は 在荷薄と期
物の入荷 多きな氣
折柄に不利

す
双方睨合ひの標
行き交

人荷次第に願を得べく從つて
品物 **或程度迄** 繰
せらるべく期待されつゝ

他方面より米々廻米を見
りしか内地期 米の上向
と鐵路輸送の復舊及輸出
の解除司方面一

五

重慶
九
重慶
重慶

九三〇
八二五
八二〇

價
入八二〇
八〇〇

▲周上主行(下取不)

四二四六
三三五〇

永豐豆
本廣豆

四三〇〇
四二〇〇
四一〇〇

發

五三二
七二一
八三

三 一 三	新 安 州 城	三 四 一	仁 加 安 前	六 四
四 四 九	漁 真 賓	五 〇 二	永 登 鼎 殿	八 一
六 一 九	中 國 國	七 四 六	南 大 門 寺	八 五

六六四
五二五〇
南大門
▲乘一浦

線
七四七
水
湖
南
線

一八三〇

卷之四

京城日報

學國一致內閣

「學國一致」の目標は、寧ろ「後進」の國に對する「同情」の表示に過ぎない。然るに、この「同情」の表示は、實に「學國一致」の第一歩である。...

時局と國民思想

貴族院議員 鎌田榮吉氏談其二

今日の時局は、實に驚異的である。...

並行線

瀧岡村

「並行線」のやうに、平行して進む。...

文藝の發端

田中文字博士談

文藝の發端は、實に古くからある。...

家庭邂逅

小澤

「家庭邂逅」のやうに、偶然に會つた。...

次回小説預告

佐々木峰雪氏

次回小説預告は、實に興味深い。...

富山房縮刷名著

第七卷	現代名家書簡集	天金美本
第六卷	現代名家書簡集	天金美本
第五卷	現代名家書簡集	天金美本
第四卷	現代名家書簡集	天金美本
第三卷	現代名家書簡集	天金美本
第二卷	現代名家書簡集	天金美本
第一卷	現代名家書簡集	天金美本

本日之實業

米專賣可能	米專賣以上	紡績配當	高等常識の力	所謂成金者流の	傍若無人	の振舞	の振舞	の振舞	の振舞
-------	-------	------	--------	---------	------	-----	-----	-----	-----

教員學科講義

米專賣可能	米專賣以上	紡績配當	高等常識の力	所謂成金者流の	傍若無人	の振舞	の振舞	の振舞	の振舞
-------	-------	------	--------	---------	------	-----	-----	-----	-----

高島平三郎先生共譯

山本源之丞先生共譯

多きを論ず

朝鮮の米

熊平なり

熊平なり

京本町

京本町

熊平支店

熊平支店

富山房

富山房

東京

東京

大阪

大阪

京都

京都

名古屋

名古屋

福岡

福岡

札幌

札幌

仙台

仙台

青森

青森

岩手

岩手

秋田

秋田

山形

山形

宮城

宮城

福島

福島

茨城

茨城

栃木

栃木

群馬

群馬

埼玉

埼玉

千葉

千葉

神奈川

神奈川

東京

東京

蘭絲商行主の銃殺された

會社專断取捨後なる松本彌三氏との他の關係者に達れつゝ午前二時半鐘に著目車庫にて下山に就かれたるが、慘死處を現地附近の路端に下したる

◆橋架上にて始めて鉄砲を射したる時には覺悟の上ながら思ひの次第三足踏に取觸れ、これを取しうしたるは尤も次第

鐵砲に射ち落しものならんと思ひ當房をさんせし時

山上にて 直徑を窺へ

吉井が助けて呉れよと聲援を揚げる聲が聞けしやうと味黨を思ひつゝ附近に大木を倒れしめて居れる吉井を撥開に直ちに聲援に便するものなりとい

同行せる鮮人
通譯の賣氣

故人ノ號あり、松本野氏は、
 坂にて故人の生所に見舞ふて曰く
 「松本氏は新聞出に於る者にして
 七十七歳にして來り、而かも望んで
 成功したる人にして、非
 常に向ふ資質の點ハ、商人に劣
 らずといふに、此の點を以て、
 人に對して、其の意見なきは、
 其のくその人は殺された、聞か

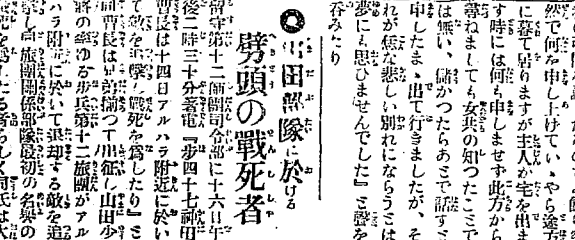
赤亡人の悲劇

る十九日の午後二時半頃、
家より妻女（一）とめ（二）は長男正
及（三）び店員數名、その仲間係
共に
現場に
急行し警察

に正直で人の世話なごはよくす
方でした』亦被害者の屍體を第

又印匠より頼がら落ちて絶命せる
 の小袷の談によれば同氏が兇行
 した所にある金堀事務所の空
 てた所に屍體に對面は泣顔を待
 に在りて屍體の足跡を待
 証つてあることを三人は泣顔
 して赤爛れた眼を伏せて泣
 者の用を請したるもの（陳尸密
 然で何んを申し上げていゝやら遂に
 に登り降りますが主人が宅を出
 す時には何ん申しますか此方から
 奪はましても女共の知つたこと
 は無い、儲かつたらあさで誰す

留守第十二師團司令部に十六日午
後二時三十分着電「歩四十七師團
曹長は十四日アルハラ附近に於いて
敵を攻撃し戦死を爲したり」さ
らば曹長は「歩四十七師團」山下少
將の統率する歩兵第十二旅團がアル
ハラ附近に於いて退却する敵を追
撃し高松團部隊隊初の名塚の



單及イ

昭和三年十月廿二日(土)午後一時
 愛婦軍事講話 夢國館
 入席者は九月二十一日午後一時
 龍岩館樓上に於て左の軍事講話
 を開演
 文藝家國婦人の活動に就て
 陸軍歩兵少佐 鈴木大次郎君
 演説
 演説會にては二十一日より
 京成電氣
 車運送票を配るが更に第一

山室大佐講演 龍岩館
 昭和三年會館に於ては二十一日午後
 七時半より山室大佐大佐の講演
 ありしべし
 伊予宗族會 京本町三丁目
 津十宗 敬賀會に於ては日々

四年 渡金山 三年 北渡山
 二年 生島山 一年 白岳山

一三年の日子と莫大の費

を要するに鈴木砲術長語る

河川防務科、理事事務所へ訪へて河川
砲術に對し、少佐は曰く十六日迄には
引揚げる茶臼を附したる屍體に合
つて百十九名及び浮尸十一名を取
寄せたが、此の收容を終る爲也。

引揚作業

はまだ著手せ

を告ぐ歸郷の味方上及び國防上
より比較的研究として、引揚げの
件で之を研究して來り、事已か
うと思ふからまだ急ぎ、著手に
は相當の日數費するだらう。簡氏
は歐戰前山崎實權において河
川防禦に關する論文を發表す

殘る二門を使用し得る勇令が
にして之が指揮者は砲術長

七、拙撰して居るから其以下の著者が拙撰する事となるのみか、假令にも又種々の錯誤を來す事なるので、自然

●備砲全部の能力を發揮

論者文藝家（一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百）

▲一口嘸

●熊公八高の大名さん、女子學、尊院長になつたこと、八公、それ見、うだから八公だつて、席座に出来ぬ

で
◎熊公
▲一口嘸
八高の大島さん

鶴 うだから八公だつて、何處に出来たか
 な (やゝ二一)
 は 目黒に市川丁
 か 矢谷 花翁
 は 先生 御座います此御は、貴方のより目で
 分る 予から御座います、進んで見なければいけません
 南 醫者の子で、私に、お父さんといふ人
 二 人か来るのを、お父さんといふ人
 に 京ぬ 春 泉
 〓 貴校生徒、お父さんの、使所で少
 へなすつて、お父さんといふ、何にシ

要書類持つて居よう苦
な事は少し頭の在る人は知

因に艦長 正木定太郎は
数日來艦内に滞在したため、陽明里
原島鐵佐伯郡次へ付、自宅に歸省
歸途中のさう、海難に遭ふ。熱
激しく遂に昏容、殊に感傷の重傷
を蒙るに至る。より總てに陽明里
なる氏は自ら進んで同村、陽明里
に入り、目下加療中、中なるが、最後

豫言者

佛軍の必勝を語る

京日案内

○大塚大デパート
○大塚大デパート
○大塚大デパート

外人を求む

○大塚大デパート
○大塚大デパート
○大塚大デパート

博多屋本店

○大塚大デパート
○大塚大デパート
○大塚大デパート

御針サン

○大塚大デパート
○大塚大デパート
○大塚大デパート

外人を求む

○大塚大デパート
○大塚大デパート
○大塚大デパート

博多屋本店

○大塚大デパート
○大塚大デパート
○大塚大デパート

御針サン

○大塚大デパート
○大塚大デパート
○大塚大デパート

外人を求む

○大塚大デパート
○大塚大デパート
○大塚大デパート

博多屋本店

○大塚大デパート
○大塚大デパート
○大塚大デパート

